

“戦争と平和” 関連番組

NHKスペシャル

沖縄と核

8月9日（水）午後10：00～10：49 総合テレビ

45年前の本土復帰まで、アジアにおけるアメリカ軍の“核拠点”とされてきた沖縄、これまで、その詳細は厚いベールに包まれてきた。しかし、おとし、アメリカ国防総省は、「沖縄に核兵器を配備していた事実」を初めて公式に認め、機密を解除。これを受け、いま「沖縄と核」に関する極秘文書の開示が相次ぎ、元兵士たちもようやく重い口を開き始めた。そこから浮かび上がってきたのは、“核の島・沖縄”の衝撃的な実態だ。1300発もの核兵器が置かれ、冷戦下、東西陣営の緊張が高まるたびに、最前線として危機的な状況に置かれていたこと、さらには、「核」の存在こそが、沖縄への米軍基地集中をもたらすひとつの要因となっていたという新事実…。

1950年代から急速に部隊の核武装化を進めようとしたアメリカと、国民の见えない所に「核」を欲した日本、両者の思惑の中、“唯一の被爆国”の番外地として、重すぎる負担を背負うことになった沖縄。新資料と関係者への証言から、沖縄と「核」の知られざる歴史に光をあてる。



NHKスペシャル

全記録 インパール作戦

8月15日（火）午後7：30～8：43 総合テレビ

補給線を軽視した無謀な戦いで甚大な死傷者を出し、旧日本軍の体質を象徴的に示したとされる「インパール作戦」。「援蒋ルート」の遮断を主目的とし、ミャンマー（当時・ビルマ）から、イギリス軍の拠点があったインド北東部のインパールの攻略を目指した日本軍は、この作戦で歴史的敗北を喫した。戦死・戦病死した日本兵の死屍累々が並んだ道が「白骨街道」と呼ばれるほど凄惨な戦いの実態はどのようなものだったのか。インドとミャンマーの国境地帯が戦後長く未踏の地だったが、今回、両政府との長年の交渉の末に現地取材が可能となった。さらに、新たに



見つかった一次資料や作戦を指揮した将官の肉声テープなどから「陸軍史上最悪」とされる作戦の全貌が浮かび上がってきた。

数々のスクープ映像と新資料、証言からなる「インパール作戦」の全記録は、決して忘却してはならない記憶を、未来へと継承していく。

※タイトルは全て仮題



“原爆の絵”は語る ～ヒロシマ 被爆直後の3日間～

8月6日（日）午後1：05～1：48 総合テレビ

スーパーハイビジョン試験放送：7/31-8/2, 4-9, 11-16 後1:00～1:43

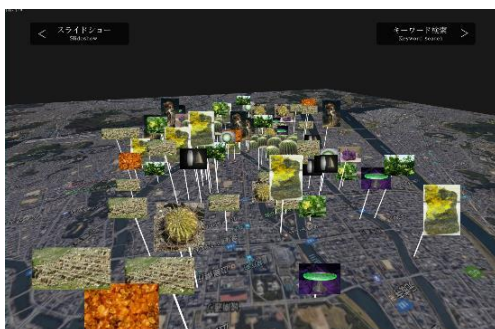
1945年8月6日、人類初の原子爆弾が投下された広島。あの惨禍を生き抜いた被爆者たちは、後世に伝えるため自らの実体験を、「原爆の絵」に描き残した。現在、およそ4,200枚が広島平和記念資料館に所蔵されているが、劣化が激しく展示されているのはごくわずかに過ぎない。一枚一枚に目撃した日時や場所、色や音や臭い、その時の心境まで生々



しく書き込まれた原爆の絵は、被爆の実態を五感で伝える貴重な“証言記録”でもある。今回、8Kスーパーハイビジョンの超高精細カメラで、絵の細部まで丹念に撮影し、時系列に沿って再構成することで、被爆直後の壮絶な3日間を、追体験するようにたどっていく。72年前の夏、あのキノコ雲の下で何が起きていたのか。ナビゲーター：波瑠 東出昌大

【関連情報】 インタラクティブ8Kビューアー “原爆の絵”

NHK と広島平和記念資料館の共同事業。劣化が激しく一般公開されていないものも含め約4,200点所蔵されている“原爆の絵”を8K以上の超高精細画像で記録。広島の3D地図上に日時・場所情報とリンクさせて表示。タブレットの操作で絵の選択、作者説明の表示（日・英）ができ、拡大しても超高精細画質で表示できるシステムをNHKが開発。



【関連情報】 特別展示「8Kスーパーハイビジョンで見る“原爆の絵”」

- 期間：8／1（火）～16（水） ■場所：広島平和記念資料館（原爆資料館）
- ◇8K番組（10分版）上映「“原爆の絵”が語るヒロシマ」【日本語・英語版】
- ◇8Kアーカイブ表示システム『インタラクティブ8Kビューアー“原爆の絵”』の展示体験